

No.105



愛媛県 青少年赤十字だより

「未来のあなたへ やさしさを」

〜一〇一年目のスタート〜



愛媛県青少年赤十字指導者協議会

会長 堀内良之

(西予市立田之筋小学校長)

二〇二二年五月五日、「未来のあなたへ やさしさを」のテーマの下、青少年赤十字は創設百周年を迎えました。一方、新型コロナウイルス感染症は、感染症法の第五類に分類され、活動の制限が緩和されました。そのような中、創設一〇一年目、二〇二三年度の青少年赤十字がスタートしました。学校教育の中で、人との直接的な関わりを大切にしたい、子どもたちに、過去・現在・未来も変わらない普遍的な価値「人道」の精神、「やさしさ」を育むことをねらいとして活動している青少年赤十字。相手のことを思いやるのが「人道の心」を育むことに繋がり、「やさしさ」を見つめることがいじめ等学校が抱える問題解決の一助となることも期待されます。

青少年赤十字研究会は、一〇月二〇日(金)に、伊予市立中山中学校で開催されました。中学校での開催は、実に一九年ぶりのことでした。「生き生きと主体的に活動する生徒の育成」愛する地域とともに「」の研究主題の下、青少年赤十字の実践目標を関連付け、「気づき、考え、実行する」態度目標を生かした外国語科と国語科の公開授業、「拉致問題の解決」に全校生徒で取り組み、学びを基に、「今私にできること」をCMにして発表する集会等、生徒のみならず誰もが生き生きと表現する姿を見て、改めて、「青少年赤十字ってすばらしいな。」と感じました。

今年度の青少年赤十字・赤十字奉仕団県大会は、初めて会場を日赤愛媛県支部に移し、青少年赤十字はオンライン参加、奉仕団は募集の形式で行いました。突然の暴風警報発令により、参加校は少なくなりましたが、コロナ禍になって、四年ぶりに青少年赤十字と赤十字奉仕団が一緒に県大会に参加しました。司会や体験発表では、青少年赤十字高校生連絡協議会のメンバーも活躍しました。一方、夏の指導者講習会は、一泊二日で計画していましたが、参加申込みが少なく、急遽一日に変更しました。また、高校生・中学生・小学生合同トレーニングセンターは、従来の宿泊形式で実施計画を立てましたが、残念ながら小学生の参加はありませんでした。

六月に東京で開催された全国青少年赤十字指導者協議会総会と一月に香川県で開催された第五ブロック青少年赤十字指導者協議会長及び事務担当者会議に出席しました。その中で各支部の課題等を出し合い、①指導者講習会の参加者の確保、②トレーニングセンターの参加者の確保、③加盟校の減少等について情報交換を行いました。①②については本県でも課題となっており、研修会については日程、内容等工夫が必要です。

③については、赤十字や青少年赤十字の魅力伝え、ファンを増やすという提案がありました。確かに、青少年赤十字は学校の教育目標を達していくうえで魅力的なツールなのです。そんな青少年赤十字の魅力をしっかりとアピールして広めていくことが大切であると思います。

最後に、本協議会の活動に御支援をいただいた皆様に深く感謝申し上げますとともに、子どもたちにやさしさを育む青少年赤十字活動が、なお一層広まっていけますように、今後とも御指導・御協力をお願い申し上げます。

《指導者協議会総会・研修会》

四月二〇日（木）日本赤十字社愛媛県支部・研修室で、令和五年度愛媛県青少年赤十字指導者協議会総会・研修会を開催しました。

四年ぶりに参集形式での開催となった本総会では、事業報告と会計・監査報告に続き、事業計画説明と予算審議ののち、研究推進校による実践報告（愛南町立一本松小学校）と推進報告（伊予市立中山中学校）がありました。

研修会では、日本赤十字社愛媛県支部活動推進講師であり、過去には全国の指導者協議会長を務めた経験がある、藤井厚介氏による「青少年赤十字のすすめ」と題した講演がありました。



《高校生連絡協議会～春の総会～》

五月二七日（土）日本赤十字社愛媛県支部・研修室で開催し、六校から三六名の参加がありました。

今回は「ジェンダー問題について」の学習と、グループワーク「リテラチャージャークル」を行い、世界や日本のジェンダー問題について、考えを深めました。



《リーダーシップ・トレーニングセンター指導者養成講習会に参加して》

西条市立三芳小学校 教諭 多田 友美

講習会では、子どもたちが実際にリーダーシップ・トレーニングセンターで行う活動を疑似体験しながら、

「気づき・考え・実行する」子どもたちを育てるための方策について学ぶことができました。特に印象的だったのは、「子どもの気付きを促すための働き掛けです。講習会での生活は、全てが「気づき」「考え」「実行する」ことを基に構成されており、周りの状況に目を向けながら、自分は今何をすべきかを考え、行動に移すことの大切さについて、身をもって学ぶことができました。この経験から、私たち指導者は子どもたちが主体的に気付きに向かうための仕掛けをふだんの生活の中に散りばめておくことが必要だと分かりました。また、子どもたちが自ら気付きのためには、指導者自身が子どもの気付きを待つことも大切だと学びました。日々子どもたちに寄り添いながら、気付きに向かうためのパスを出していきたいです。

また、全国の様々な校種の先生方や日本赤十字社の支部の方々と情報交換をすることができたことは、青少年赤十字の視点に立った教育活動に取り組む上で、貴重な学びとなりました。今後も、自ら「気づき」「考え」「実行する」子どもたちを育てるために、本研修で学んだことを日々の実践に生かしていきたいです。

《指導者講習会》

七月二四日（月）日本赤十字社愛媛県支部で、青少年赤十字指導者講習会を開催しました。

今年には三名の方々にご参加いただき、非常炊き出し体験や身近なものでできる応急手当などのプログラムを実施しました。

《参加者の声》

今治市立立花小学校 教諭 白石 恵子

青少年赤十字というと、どんな活動をすべきなのだろうと、今回の講習会を受講するまでは、難しく考えていた。しかし、身近なことから活動につなげられる

ことや、今現在行っている活動への意欲の待たせ方によっても、赤十字の理念と意識した活動になることが分かった。

防災教育プログラムでは、様々なプログラムを紹介していただき、学校現場で実践してみたいものもあった。

中でも防災まちがいがしは、とても分かりやすかった。小学生低学年でも使えそうだなと思った。身近なものでできる応急手当もとても勉強になった。何かが起こった時に生かすことができれば良いと思う。

勤務校での活動に行きづまっていたのを相談させていただくと、いろいろなアドバイスをくださり助かった。

済美平成中等教育学校 石原 俊典

思っていた研修とは少しイメージが違ったが、一日の研修の中で、慣れていったと思う。

気づき・考え・実行するの態度目標を生徒たちに伝えるために、青少年赤十字を道具として活用すること、いろんな形で授業や行事に、隠し味のように使えるのではないかと、いくつかアイデアがわいてきた。

自分の振り返りとして、生徒たちと接したり、学校生活をしていく中で、いろいろ指しをすぎたり、情報をたくさん与えすぎたりしたと思う場面もあったので、「先見」の考えやよめることと同時に待つてやることも大切なことと改めて考えさせられました。今日の研修のことをまずは近くの先生に話してみようと思います。



白鳩保育園 保育士 矢野 敬将

初めて赤十字の研修を受けさせてもらいました。始まるまでは「どんなことをするのだろう」とドキドキしていましたが、時間が経つにつれて楽しさが増えてきました。

一日しか参加できず残念でしたが、また参加できるときはフィールドワークをしてみたいと思いました。一回研修を受けただけでは、実際ケガがあつたとき、上手くできないことや忘れてしまうので、日々の生活の中で、他の先生に教えて、みんなであれないうにできたらいなと思います。

非常食を今まで食べたことがなく、今日作り方や味を知ることができてよかったです。ごはんは少し食べにくかったけど、災害時などでは食事があるだけで幸せなことなんだなと思いました。

保育園でもハイゼックスでご飯を作って、子どもたちにも味やかたさなどを知ってもらえると楽しいと思いました。また、いつものご飯との違いなども知ってもらいたいと思います。身近なものでできる応急手当も体験できてよかったです。



《高校生・中学生・小学生

合同トレーニング・センター》

七月二十九日(土)～七月三十一日(月)松山市「えひめ青少年ふれあいセンター」で開催し、高校生十七名、中学生五名の計二十二名の参加がありました。

四年ぶりに二泊三日のプログラムで実施することができ、参加メンバーそれぞれが学びを深める有意義な研修になりました。

《参加者の声》

今治市立西中学校 三年 宇高 成彦

今回初めて、青少年赤十字高校生・中学生合同トレーニング・センターに参加して、改めて、共同で生活することの大切さや自分で考えを持つことの意味がよく分かりました。僕は一人で行動することが苦手で、不安や緊張があつたけど、時間通りの生活を通して自分の行動や言動に自覚と責任を持つことができました。ワークシヨップなどでは、SDGsやAEDの使い方について学ぶ機会が少なかつたので、とても貴重な時間になりました。また、留学生の方のお話を聞いて、今、社会で起きている現状や課題について、班のみんなと共有できました。僕は将来、できれば海外関係の仕事につきたいなど考えていたので、各国の文化や生活について知ることができて、夢への一歩を踏み出せたと思います。AEDの使い方では、加地先生の面白いトークと分かりやすい説明で、今後のためになりました。また、パートナーだった山崎さんが「こうしたらもっと良いよ」とか「こうじゃない？」と優しく教えてくださったので、楽しく学ぶことができました。フィールドワークでは、班全員が助け合って、楽しく活動することができました。一人一人が思いやりの心を持って行動できたので、結果は一位と夏休みの最高の思い出になりました。

今回のトレセンで学んだこと

は、今やこれからの大切な思い出になりました。高校生の人も仲間良くなれて、二日間で大くさんの「友達」ができました。家に帰ったら、トレセンの思い出を家族の人に話して、今後の生活に生かしていきたいと思います。



愛媛県立松山南高等学校 二年 石崎 舞衣

今回は、四年ぶりとなる二泊三日の合同トレーニング・センターが開かれる年で、参加できたことを嬉しく思います。一日目は、役員として会場設営などから始まりました。初めて会う高校生、中学生ばかりで、たつた三日で仲良くなれるのが少し心配でした。いよいよ開講式がスタートし、自己紹介も兼ねたオリエンテーション、アイスブレイクで参加者のことが分かつてきて、少し不安がうすくなつていきました。このトレーニング・センターで合言葉となつているのが「気づき・考え・実行する」です。私は、何事も、勇気を出して自分から行動してみることを第一に研修に取り組みました。

二日目から参加した中学生や他校の高校生に、自分から声をかけました。学習の時間には、発表や班員全員での話し合いをしました。また、前に立って話される方の話をよく聞き、メモを取ることを忘れないようにしました。これらのことも、誰かに言われる前に自分で気づいて行動できるように、これからの生活で大切にしていきたいと思います。

三日目のフィールドワークで、今回のトレーニング・センターでの学びを最大限発揮できたように思います。四つの試練では、それぞれメモを取って話を聞いていたこと、チームワークを良くするため積極的にコミュニケーションをとること、言葉で伝えなくても互いの気持ちを読み取ること、相手を思いやって声をかけることができたと思います。講評では、見事に満点優勝という結果になり、本当に嬉しかったです。今日までの三日間で、初日の不安は消え、たくさん楽しい思い出と学びを作ることができました。話をしていないと不思議と初対面ということも忘れ、目の前の課題に協力して取り組んでいることに気がつきました。この学びをこれから生活に生かせるようにしていきたいです。良い三日間でした。



第六五回青少年赤十字研究会を終えて



伊予市立中山中学校

校長 作道 勉

本年五月、新型コロナウイルス感染症が五類感染症に移行され制限のない中で迎えた一〇月二〇日、中学校開催としては一九年ぶりとなる青少年赤十字研究会を開催しました。県内各地より一〇〇名を超える皆さまにご参加いただいたことに、心より感謝申し上げます。

さて、本校は令和四・五年度の二年間の研究指定をいただき、研究主題「生き生きと主体的に活動する生徒の育成」愛する地域とともに「国際理解・親善」をテーマに研究を進めてまいりました。

本校は、山間の小規模校で、他者との関わりが固定化される環境下にあります。そこで、身近な人や地域との関わりを広げながら、国際社会に目を向ける教育活動を推進してきました。生徒たちは、テーマに沿って学習する中で、青少年赤十字の態度目標である「気づき・考え・実行する」に当たる



・身近な問題を発見する
・問題解決のための方法を探る
・活動し、評価と反省に活かす
ことを、意識しながら学ぶことができ
ました。また、他者との協働や主体的
に取り組むことで、少しずつではあり
ますが、自分の思いや考えをうまく表
現できるようにになりました。今後と
も、地域を愛し、多様な他者との関わ
りを大切にしながら主体的に活動する
生徒を育てたいと思います。
結びに、本研究会の企画・運営に始
まり、ご指導ご助言をいただきました
関係者の皆様方に、厚く御礼申し上げ
ます。本当にありがとうございました。

研究主題の概要

《研究主題》

生き生きと主体的に

活動する生徒の育成

～愛する地域とともに～

《研究の仮説》

一、各教科や教科外の授業や活動において、基礎・基本を大切にしながら学習への取組や人とのつながりを工夫した教育活動を実践することで、豊かな表現力を育むことができるであろう。

二、地域の人や自然、文化とふれあう場を設定したり、様々な人権教育を充実させたりすることで思いやりの心が一層育まれ、自己を尊重し、主体的に活動する生徒が育つであろう。

《研究の方法と内容》

一、学習部会

ア パフォーマンス課題の設定

イ 生徒の主体性を育てるための授業改善

二、道徳・総合・学活部会

ア 人権教育の充実

イ 国際理解教育の充実

ウ N E T (総合的な学習の時間)の充実

《研究の成果》

一、言語技術教育の出前授業をきっかけとし、自分の思いや考えを進ん

で伝えようとする意志や表現力が育っていることを実感している。生徒のアンケートでは、「授業のときには自分の考えを整理してから発表することができるようになった」という意見が多く挙げられた。

二、国際理解コーデイナー・中矢匡氏の講演をきっかけに、『ウクライナへのオモチャ郵送』を生徒の発信で実施した。中矢氏の講演を通して、世界には避難所で苦しい生活をしている子どもたちがいることに気がつき、自分たちができることは何かと考えた結果、オモチャを集める活動が生徒会主体で行われた。生徒の視野が、校内での気づきから世界規模の気づきに広がっていることが実感できた。

《研究の課題》

自分の思いや考えを伝える力が身に付いていないと感じる生徒や、実行する力が身につけていないと考える生徒が一定数いる。さらに、自分の思いを持つことはできているが伝えることができない生徒や「気づき考える」ことはできているが「実行する」には至っていない生徒に今後、どのように支援していくか、という課題が残っている。

研究会報告

伊予市立中山中学校

一「公開授業」

○一年生英語科

「世界にある課題を知る」

「国際理解」に関する学習をきっかけとして、世界について生徒の視野が広がり、課題意識が深まってきた。本時は、世界には数々の課題があることに「気づく」ということに重点を置いて授業を行った。

これまでに小学校や他教科で学習した「国際理解教育」やSDGsに関する内容から、生徒が知っている世界的課題を取り上げることとし、その課題を解決するために尽力した人物に焦点を当て、英語での人物紹介を実施した。今後その課題について考えながら、できることを実行していく生徒の育成への第一歩となった。

○三年国語科

「言葉で世界をつなげる」

本授業は、言葉の力を信じ、言葉によって考え、言葉によって伝え合おうとする姿勢をもつことを目指した。「国際理解」に関するものも含めた社会的なテーマを生徒自らが設定し、それに対する考えを深め、「メッセージ」という形で発表した。

メッセージを作成する学習段階では、どうすれば他人事の表現や常套句

ではない力のあるメッセージになるか、当事者への配慮が行き届いたメッセージになるかなどといった視点から、何度も文章を推敲する姿が見られた。一つの言葉にこだわり、表現を吟味することは、豊かな言語感覚の醸成につながると考えられる。当日の発表では、声の大きさや抑揚、目線などに留意しながら堂々とメッセージを発表することができた。

○全校特別活動

「拉致問題の解決を目指して」

いまだ解決しない拉致問題に苦しむ人々の思いや行動に触れ、拉致問題を解決するのは自分自身であるという認識のもと「拉致問題啓発CM劇」を発表する活動を行った。

縦割り班でCM劇を発表し、拉致問題を他人事で終わらせてはいけないという熱い想いを表現した。また、他の班の発表に対して、質問や意見を述べることで、新たな気づきや考えを生む学習となった。

授業後、生徒からは、「どんな問題も自分事として捉えていきたい。」などの感想が述べられた。拉致問題に限らず、様々な人権課題を自分事として捉えようとする態度を育成することのできた授業となった。

二「分科会」

○第一分科会

教育課程の実施に青少年赤十字をどう生かせばよいか。

西条市立三芳小学校より、JRCの精神を教育課程の実施に生かす取組が紹介された。JRC週間を設けたり、募金の使い道を児童が調べ発信したりするなどの活動を通して、関係ないと思っている児童も、まずは知る機会となり、考えるきっかけとなることを学んだ。また、「重ねる」、「繋ぐ」をキーワードとして、教科横断的な学びを充実させるとともに、学校で学び、考えたことを地域に発信することも大切であるとの助言があった。

○第二分科会

地域と一体となった児童生徒の育成に青少年赤十字をどう生かせばよいか

西予市立明浜中学校より、豊かな地域資源を生かした実践が発表された。植樹活動や清掃活動、郷土料理の調理実習など、地域特有の特色ある活動を、青少年赤十字の実践目標「気づき・考え・実行する」の視点から見つめ直すことよって、より一層の活動の充実と生徒への教育効果の高まりが期待される。

協議及び指導助言では、学校における様々な活動を「目的」ではなく「手段」として捉えることで、活動を活性化させること、青少年赤十字を一つの「ツール」として積極的に活用すること

の重要性について言及があった。

三「全体会」

○指導助言 竹村京子指導主事

(愛媛県教育委員会義務教育課)

中山中学校の取組の特色は、①豊かな表現力を育てる教育活動、②心のつながりを大切にしていた教育活動、③子どもたちによりよい社会や学校生活を主体的に創造させる場の充実である。青少年赤十字の活動では、「為すことによつて学ぶ」側面が強いのが特徴であり、生徒が「意思決定」する機会を増やすことで、生徒の主体的な活動を引き続き支援してほしい。青少年赤十字の活動に義務はなく、赤十字が持つ人材や情報などを活用することで、各校の教育目標を具現化してほしい。

○講演 大石 紗己氏

(国際協力推進員)

「同じ地球市民としての思いやり」国際協力隊として、セネガル共和国に赴いたときのことを話していただいた。陽気な国民性の一方で、日本との差を感じ、驚いたことについて話していただいた。電気、水などのインフラが整っていないこと、国民の識字率が十分でないこと、医療が十分行き届いていないことを実際のエピソードとともに話された。さらに、これから日本は、多くの外国の方が移住して来られることが予測されている中で、隣にいる外国人に対して私たちができることは何かを問う講演であった。

《高校生連絡協議会》秋の総会》

一〇月一五日(日) 日本赤十字社愛媛県支部・研修室で開催し、四校から一八名の参加がありました。今回のテーマは「国際問題」で高校生役員メンバーが準備をした「国際問題」現状を把握し私たちに何が出来るか考える」の学習と、グループワーク「羽づくり」を行い、国際問題への理解を深め、行動するためのきつかけづくりになりました。



《青少年赤十字・赤十字奉仕団愛媛県大会》

一月一八日(土) 日本赤十字社愛媛県支部及びオンラインで開催し、青少年赤十字や赤十字奉仕団等から総勢一三〇名の参加がありました。

大会では、「アジア・大洋州災害対応衛生給水キット」整備のための一円玉募金(大会当日受付分:一六〇、三五一円)の贈呈や、長年、活動が続けている学校・指導者の表彰、伊予市立中山中学校や高校生連絡協議会、青少年赤十字賛助奉仕団、伊予市赤十字奉仕団の活動報告がありました。

ご参加いただいた皆さま、誠にありがとうございました。



《青少年赤十字国際交流事業

JRC/RCY International Meeting "Tokyo 2023"》

一月二三日(木)〜一月二六日(日) 東京の国立オリンピック記念青少年総合センターで開催され、日本を含む一〇の国と地域から日本メンバー三九名、海外メンバー二六名の計六五名が参加しました。

五年ぶりに対面形式で実施されたこの集会では、気候変動対策と平和教育を主なテーマとし、自分ができる「持続可能な未来に向けた青少年赤十字活動」は何かを考えました。

《参加者の声》

新田高等学校 二年 山崎 ゆい

令和五年度青少年赤十字国際交流事業に参加できたことを光栄に思っています。約七〇人の他県や海外の同世代の人たちと交流する機会は少ないので、貴重な経験をする事ができました。集会での公用語が英語のために不安もありましたが、言語の壁があっても、伝えようという気持ちと思いやりの心があればコミュニケーションが取れることを体験し、今後の自信にもつながりました。

私は平和教育をテーマとするHRに参加しました。ディスカッションを通して、平和教育の方針が国によって異なることや、日本国内でも平和教育に対する力の入れ方が違うことなどを知り、驚きました。また、メディアで争いを取り上げる場合、どちらかが悪になってしまいう傾向が強いことも学びました。客観的な視点から世界情勢を学ぶ時間を学校教育の中で作っ

て欲しいとHRの意見がまとまりました。集会を通して、昨今の世界情勢に対する自分の認識の甘さを痛感するとともに、国際化が重視されている今、最新の正確な情報を得て、それについての考えを話し合い、共有できる場を作る必要性を強く感じました。

集会全体を通して様々な人の考え方に触れ、自分の思考の幅を広げることができました。「Peace walking (待つだけでは平和は来ない)」という言葉を胸に、自分のできることに取り組むことを決意しました。



《青少年赤十字指導主事対象研究会に参加して》

愛媛県教育委員会義務教育課

指導主事 竹村京子

一月一二日、東京都で開催された指導主事対象の研究会に参加させていただきました。有意義な研修の中で特に印象に残った学びは次の二つです。

一つ目は、青少年赤十字の態度目標「気づき、考え、実行する」が、学習指導要領に示されている、自ら学び自ら考える力などの「生きる力」の育成や主体的に行動できる子供の育成につながるものであるということです。これからの時代を生きる子供たちに必要な能力を育むためには、主体的な活動や人との関わりの中で学ぶことが重要です。道徳教育や特別活動など普段行っている教育活動を、青少年赤十字の態度目標で

ある「気づき、考え、実行する」子供の育成を意識して価値づけることで、子供たちの「生きる力」の更なる育成につなげることができそうです。

二つ目は、青少年赤十字の豊富な教材や人材を積極的に活用して工夫を加えることで、更に教育活動の充実を図ることができるということです。青少年赤十字では、様々なプログラムが用意されており、世界的なネットワークを持つ赤十字の資源を活用すれば、子供たちの考え方や行動力、社会性を広げることができそうです。

今後も、青少年赤十字の態度目標や活動が、学年を問わずどんな場面でも活用できる素晴らしいものであることや、青少年赤十字を特別なものと考えるのではなく、普段実践している活動を関連づけて活用することで、学校現場でより豊かな教育が実践できることを発信して参りたいと思います。

《青少年赤十字スタディー・センター》

三月二二日（金）～二六日（火）山梨県山中湖村「東照館」で開催され、県内高校生メンバー二名が参加しました。

四泊五日での開催は五年ぶりです、全国から七三名の参加があり、充実したプログラムになりました。

参加者の声

愛媛大学附属高等学校 一年 村上 千登世
私は、三月二二日から二六日まで山梨県で行われた

青少年赤十字スタディー・センターに参加しました。

ここでは、「指示のない生活」という今までにない体験をしました。必要な連絡は掲示板で行われるのです。普段なら、学校では先生の指示で動き、部活動では部長の指示に従って練習をしていました。最初は、指示がないということに戸惑うことも多くありました。しかし、段々と慣れて行くうちに先を見越した行動ができるようになりました。この「指示のない生活」のなかで、自分の行動に責任を持つことの大切さを学ぶことができました。

また、講座の中で強く印象に残ったことは、「途上国が先進国の古着の最終処分場になっている」ということです。日本は、約二四万トンの不要になった服を途上国に送っていますが、その約四割が処分されてしまっているのです。それにより、途上国の繊維産業の雇用が消滅し、自立できない仕組みができていくそうです。この話から私は、相手が本当に必要としているものを想像しながら自分のやるべきことを決定するべきだと考えました。

このスタディー・センターでは、世界で起こっている問題や赤十字の活動について新しく知ることが多くありました。そしてこれから、人のために自分をどのように活かせるかを模索していこうと思います。

愛媛県立東温高等学校 一年 泉田 ころろ
今回の四泊五日のスタセンでは、多くのことを学ぶことが出来ました。まず、「自分発見・目標発見」で

は、理想のリーダーになるためにはどうしたらいいのかを考えました。ここで、自分がどのようなリーダーを目指すのか、最初のうちに明確にし、のちの講義にも生かすことが出来ました。

「赤十字と青少年赤十字」では、自分が持つ先入観を見直しました。私達が寄付している衣類は、四割が処分されおり、発展途上国に服の山や繊維産業の衰退などの原因を作っている、という話を聞いた時、私は寄付することは良い事であり、それが発展途上国に悪影響を及ぼしていることなど、疑いもしませんでした。これからは、先入観にとらわれず、しっかりと考えたいと思います。

「フィールドワーク」では、今まで学んできたことの振り返りをしました。班の人と協力して行うことで、より仲を深め、自分のできていないことを再確認し、改善しました。

最後の「これからの活動を考える」では、私のJRC部の困り事についての追求をし、原因や改善方法を考えました。同じ内容の人とグループを作り、情報を共有することによって、新たな発想や改善策、取り組みなどこれからの役に立てられることを沢山知りました。

私は最初、スタセンに行くのが不安だなと思っていましたが、たくさん仲間や知識、自分の弱さを知り、大幅に成長できました。これからこのスタセンを通して、学んだことを生かし、多くの人の役に立ちたいと思います。

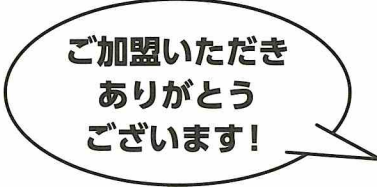
令和六年度 事業計画

- 四月 県指導者協議会総会・研修会（日赤支部）
- 五月 第一回指導者協議会常任委員会（日赤支部）
高等学校指導者協議会（日赤支部）
高校生連絡協議会（春の総会）（日赤支部）
トレーニング・センター指導者養成講習会（東京都）
- 六月 賛助奉仕団総会（松山市内）
全国指導者協議会総会・研修会（東京都）
- 七月 全国賛助奉仕団協議会（東京都）
指導者講習会（松山市内）
- 八月 小中高合同トレーニング・センター（松山市内）
第二回指導者協議会常任委員会（日赤支部）
- 一〇月 高校生連絡協議会（秋の総会）（日赤支部）
中・四国ブロック賛助奉仕団協議会（鳥取県）
- 十一月 第六六回青少年赤十字研究会（西条市立三芳小学校）
青少年赤十字中央講習会（東京都）
青少年赤十字・赤十字奉仕団愛媛県大会（松山市内）
中・四国ブロック指導者協議会（鳥取県）
- 一月 指導主事対象研究会（東京都）
- 二月 第三回指導者協議会常任委員会（日赤支部）
- 三月 高校生スタディー・センター（山梨県）

【新規加盟校・園(所)】

- 夜間保育所ふくろうの家
- 木の実幼稚園
- 認定こども園コイノニア幼児園
- 認定こども園ジャックと豆の木園
- 認定こども園ジャックと豆の木園 余戸園
- 認定こども園あい幼稚園
- 四国中央市立川滝小学校

- 宇和島市立番城小学校
- 松山市立内宮中学校
- 帝京第五高等学校



発行・編集

愛媛県青少年赤十字指導者協議会
日本赤十字社愛媛県支部

〒790-0854 松山市岩崎町二丁目3-40
TEL 089-921-8603 FAX 089-932-9160
<http://www.ehime.jrc.or.jp/>

(発行日 令和6年3月31日)

令和6年度
青少年赤十字加盟状況

校 種	校 数	メンバー数
幼稚園・保育所・こども園	70園	6,885名
小 学 校	173校	44,117名
中 学 校	50校	12,255名
高 等 学 校	13校	868名
計	306校	64,125名